

複式第3・4学年 社会科学学習指導案

Ⅱ組 3年 男子4名 女子4名

4年 男子4名 女子4名 計16名

指導者 阿部 大亮

1 小単元 3年「学校のまわりのようす」、4年「火事からくらしを守る」

2 小単元について

(1) 小単元の位置とねらい

(第3学年)

子どもたちは、これまでに生活科の鴨池周辺について探検する学習を通して、地域の建物や交通、そこに働いている人々を自分とのかかわりの中で捉えてきている。

そこで、本小単元では、学校周辺の様子を追究する活動を通して、地域の様子は、地形の様子や土地利用の様子、交通の様子などの視点で場所によって違いがあることを捉えさせるようにする。また、実際に見学したり地図や写真を活用したりして整理したものを基に、方位ごとに比較させ、地形の様子や土地利用の様子、交通の様子について差異点を明らかにしながら考える力やそれらを表現する力を高めることをねらいとしている。さらに、地域社会の一員として、自分たちが住んでいる地域に愛着をもって生活していこうとする態度を育てようとするものである。

このような学習は、自分たちが住んでいる鹿児島市の地形の様子と土地利用の様子、交通の様子の違いやその関連などを追究する学習へと発展していくものである。

(2) 指導の基本的な立場

附属小学校を中心にその周辺の様子は、北東の方位には、平地が広がり、一軒家やマンション、飲食店が見られ、道路が広く、自家用車やバスなどの交通量が多い。南西の方位には、山の斜面に一軒家が多く、道路が狭く、市電やJRなどの公共交通機関が見られる。このように、学校周辺の地形、土地利用、交通の様子は、場所によって違いが見られる。

そこでここでは、場所によって違いがあることについて具体的に捉えさせるために、学校周辺の地形の様子や土地利用の様子、交通の様子を取り上げていく。そして、それらを視点に方位ごとに比較させながら、差異点について具体的に考えさせていくことが大切である。

そのために、まず、学校周辺の地形の様子や土地利用の様子、交通の様子についての画像を示しながらクイズを行い、「学校のまわりの様子は、どのようになっているのだろうか。」という学習問題を設定する。次に、学習問題に対する予想を基に、追究計画を立てさせ、地形や土地利用、交通の様子を視点に学校周辺を見学させ

(第4学年)

子どもたちは、これまでに工場で働く人々についての学習を通して、生産活動などに携わっている人々の様々な工夫や努力によって自分たちの生活が支えられていることを捉えてきている。

そこで、本小単元では、消防の仕事を追究する活動を通して、消防署や関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを捉えさせるようにする。また、実際に見学したり、資料を活用したりして整理したものを基に、消防署や関係機関の働きと地域の人々の安心・安全な生活との関連を考える力やそれらを表現する力を高めることをねらいとしている。さらに、安全を守ろうとする人々の働きに共感し、地域に誇りをもち、社会の一員として安心・安全な生活を実現していこうとする態度を育てようとするものである。

このような学習は、交通事故や犯罪から人々の安全を守るための関係機関に従事している人々の工夫や努力を追究する活動へと発展していくものである。

近年の鹿児島県の火事発生件数は、若干の減少傾向にあるが、依然約700件に上っている。そのような中、消防を中心として関係機関では工夫や努力が重ねられている。火事の防止に関しては、予防運動等の啓発が挙げられる。また、緊急時に備えた勤務体制、初動体制や関係機関との連携による対応を行ったり、避難訓練や施設・設備の充実等を図ったりしてきている。

そこでここでは、消防署を中心とした関係機関の工夫や努力について捉えさせるために、火事の防止に携わっている消防の仕事を中心に取り上げていく。そして、消防署や関係機関の働きと地域の人々の安心・安全な生活との関連について具体的に考えさせていくことが大切である。

そのために、まず、火事の発生件数の推移を表したグラフなどを基に「火事から人々の生活を守るために、消防署で働く人たちはどんなことをしているのだろうか。」という学習問題を設定する。次に、学習問題に対する予想を基に、追究計画を立てさせ、火事に対する迅速な対応をするための工夫や努力、火事の未然防止を視点に分遣隊の見

る。そして、実際に見学して分かったことを視点に沿って絵地図にまとめさせる。その際、地図記号の必要性について考えさせる。最後に、方位ごとの特徴について地形や土地利用、交通の様子を視点に比較しながら話し合い、学校周辺の様子は、場所によって違うことを捉えさせる。

これらの学習は、地域に対する愛情を育み、社会的事象の特色を考える力やそれを適切に表現する力を高めることになる。また、社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、事象同士を比較することができるようになる。

このような学習を積み重ねることで、社会生活の様々な場面において、多面的・多角的に考え、公正に判断しながら、よりよい社会の実現に向けて、主体的に社会参画しようとする人を育むことになる。

(3) 子どもの実態（調査人数、各学年8名、質問法、観察法、主な項目のみ記入、数字は人数）

第3学年	第4学年
項目1 学校周辺の土地の様子 ・平ら(6) ・川がある(2) ・土手がある(2) 項目2 学校周辺の土地利用の様子 ・家(8) ・店(7) ・大学(6) ・道(2) 項目3 学校周辺の交通の様子 ・市電(5) ・バス(4) ・車(2) ・自転車(1) 項目4 「学校のまわりのようす」の学習で調べてみたいこと ・建物の様子(5) ・道の様子(3) ・交通の様子(2) ・大学の様子(1) 項目5 資料活用の技能 ・地図・・・地図記号(8)、目的地の確認(8) 目的地までの説明(8) ・画像・・・事実の読み取り(8) 項目6 社会的な思考・判断・表現 ・比較(写真)・・・共通点(8)、差異点(8)	項目1 火事の経験 ・経験なし(6) ・見た(1) ・テレビで見た(1) 項目2 火事発生時の関係機関の働き ・消防署の人(8) ・警察の人(7) ・医者(6) 項目3 火災対応以外の仕事 ・訓練(4) ・見回り(2) ・無答(2) 項目4 「火事からくらしをまもる」の学習で調べてみたいこと ・消火の仕方(5) ・訓練の内容(3) ・消防車の仕組み(2) ・火事の件数(1) 項目5 資料活用 of 技能 ・地図・・・地図記号(8)、方位(5) ・グラフ・・・最低点(8)、変化(8) 項目6 社会的な思考・判断・表現 ・比較(既習内容)・・・共通点(5)、差異点(8) ・関連付け(既習内容)・・・(8)

子どもたちは、学校の周辺の地形は、概ね平地が多いと捉えている（項目1）。土地利用については、家やお店が多いことなど、概ね特徴を捉えている（項目2）。交通の様子については、市電やバスなどの交通機関を捉えている子どもが多い。その反面、自動車に気付いている子どもは少ない（項目3）。本小単元の学習で調べてみたいことについては、建物の様子や道の様子、交通の様子が多かった（項目4）。資料活用 of 技能については、地図や画像から事実を読み取ることができる子どもが多い（項目5）。社会的な思考・判断・表現については、差異点及び共通点を捉えることができる子どもが多い（項目6）。

(4) 指導上の留意点

ア 学校周辺クイズを行い、学校周辺には、様々な地形や土地利用、交通があることに気付かせ、「地域の様子は、どのようになっているのだろう」という問題意識をもたせていく。
イ 学校周辺の様子を屋上から観察させ、方位ごとに絵図にまとめさせる。そして、屋上からの観察で明確にできなかったことを調べるために学校周辺の見学に出かけさせる。調べたことをまとめさせる際は、方位や地図記号

学をさせる。そして、調べて分かったことを整理したり、再構成させたりしながらまとめさせる。最後に、地域の消防団活動などを取り上げ、消防署や関係機関の働きと安心・安全な生活との関連について考えさせ、市民みんなで取り組んでいかなければならないことについて捉えさせる。

これらの学習は、地域に対する誇りを育み、社会的事象の特色や相互の関連を考える力やそれを適切に表現する力を高めることになる。また、社会的事象を事象や人々の相互関係に着目して捉え、地域の人々の生活と関連付けることができるようになる。

このような学習を積み重ねることで、社会生活の様々な場面において、多面的・多角的に考え、公正に判断しながら、よりよい社会の実現に向けて、主体的に社会参画しようとする人を育むことになる。

(3) 子どもの実態（調査人数、各学年8名、質問法、観察法、主な項目のみ記入、数字は人数）

第3学年	第4学年
項目1 学校周辺の土地の様子 ・平ら(6) ・川がある(2) ・土手がある(2) 項目2 学校周辺の土地利用の様子 ・家(8) ・店(7) ・大学(6) ・道(2) 項目3 学校周辺の交通の様子 ・市電(5) ・バス(4) ・車(2) ・自転車(1) 項目4 「学校のまわりのようす」の学習で調べてみたいこと ・建物の様子(5) ・道の様子(3) ・交通の様子(2) ・大学の様子(1) 項目5 資料活用 of 技能 ・地図・・・地図記号(8)、目的地の確認(8) 目的地までの説明(8) ・画像・・・事実の読み取り(8) 項目6 社会的な思考・判断・表現 ・比較(既習内容)・・・共通点(5)、差異点(8) ・関連付け(既習内容)・・・(8)	項目1 火事の経験 ・経験なし(6) ・見た(1) ・テレビで見た(1) 項目2 火事発生時の関係機関の働き ・消防署の人(8) ・警察の人(7) ・医者(6) 項目3 火災対応以外の仕事 ・訓練(4) ・見回り(2) ・無答(2) 項目4 「火事からくらしをまもる」の学習で調べてみたいこと ・消火の仕方(5) ・訓練の内容(3) ・消防車の仕組み(2) ・火事の件数(1) 項目5 資料活用 of 技能 ・地図・・・地図記号(8)、方位(5) ・グラフ・・・最低点(8)、変化(8) 項目6 社会的な思考・判断・表現 ・比較(既習内容)・・・共通点(5)、差異点(8) ・関連付け(既習内容)・・・(8)

子どもたちは、火事に対する経験がほとんど無い（項目1）。また、火事の対処に対する関係機関の働きについては、通信指令室やガス会社等が関わっていることを捉えていない（項目2）。火事の対応以外の仕事についても十分に捉えていない（項目3）。本小単元の学習で調べてみたいことについては、消火の仕組みや訓練の内容が多い（項目4）。資料活用 of 技能については、地図やグラフを読み取ることができるようになりつつある（項目5）。社会的な思考・判断・表現については、既習内容の比較については、差異点を捉えることは、できるが、共通点を十分に捉えることはできない。また、既習内容の関連付けについては十分に行うことができる（項目6）。

ア 火事の発生件数等の資料を基に、「消防署で働く人は、火事から人々の生活を守るために、どんなことをしているのだろう」という問題意識をもたせていく。
イ 分遣隊の様子を見学する活動を通して、緊急時に備えた出動態勢や施設・設備の工夫や努力を捉えさせていく。そして、119番の通報がなぜ通信指令室に届くのか考えさせ、火事の対処には、多くの関係機関が連携していることを

の必要性にも気付かせていきたい。そして、調べたことを、方位ごとに比較させ、地形の様子や土地利用の様子、交通の様子が違うことについて捉えさせていく。

ウ 追究してきた結果を、方位ごとに絵地図にまとめさせていく。また、他校に紹介する活動を設定する。

エ 間接指導時には、ガイド学習を行っていく。その為、直接指導を行う際は、間接指導時の学習の進め方のモデルとなるように、問題設定段階の「学び方」を意識して指導する。また、授業の終末では、それぞれの学びの過程を振り返らせ、学習内容を身に付けるために「学び方」を発揮することができたことを価値付ける。

3 目 標

- (1) 学校周辺の様子について関心をもち、意欲的に追究することができる。
- (2) 学校周辺の様子を方位ごとに比較しながら、学校周辺の様子の違いを地形の様子や土地利用の様子、交通の様子を視点に考えることができる。
- (3) ・ 私たちの学校周辺の地形の様子や土地利用の様子、交通の様子は、場所によって違いがあることを捉えることができる。
・ 学校の周辺の観察をして分かったことを整理し、地図記号を使った絵地図にまとめることができる。

捉えさせる。さらに、火事の予防に向けた地域との連携についても、学校周辺の施設等を観察することなどで捉えさせていく。

ウ 追究した結果を、追究の柱ごとにまとめさせていく。また、地域の一員として、火事の予防に向けて、自分たちができる取組を考える活動も設定していく。

- (1) 消防署や関係機関の働きに関心をもち、意欲的に追究することができる。
- (2) 人々の安全な暮らしを守るための消防署や関係機関の工夫や努力と安心・安全な生活とを関連付けながら考えることができる。
- (3) ・ 消防署は、関係機関と相互に協力し合いながら、人々の生活を守るために工夫や努力をしていることを捉え、自分たちも地域の一員として、火事の防止について取り組んでいくことの大切さについて捉えることができる。
・ 分遣隊の見学や資料を活用して分かったことを整理し、絵や文でまとめることができる。

4 指導計画(第3学年 12 時間、第4学年 11 時間)

過程	主な学習活動(第3学年)	主な学習活動(第4学年)	過程
① 気付き	1 学校周辺の様子についてクイズを行い、気付いたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題を設定する。① 2 学習問題について予想し、調べる内容や方法について計画を立てる。①	1 火事の発生件数等を基に気付いたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題を設定する。① 2 学習問題について予想し、調べる内容や方法について計画を立てる。①	① 気付き
② 調べ	3 学校の屋上からの様子を方位ごとに観察し、絵や文にまとめる。① 4 方位ごとにどんなものが見られたのか話し合い、学校の周りの様子ではっきりしなかったことを明らかにするための探検の計画を立てる。① 5 学校の周りを方位ごとに探検し、気付いたことを探検メモに書き込む。③ 6 探検したことを基に、グループで白地図に整理する。② 7 絵地図を基に、方位ごとの学校の周りの様子について話し合う。②(本時)	3 資料で調べたり、分遣隊に見学に行き、観察や聞き取りをして気付いたことや、分かったことをメモしたりする。④ 4 火事の対処について話し合う。 (1) 消防署で働く人の工夫や努力について話し合う。① (2) 火事が起こった際の連携について話し合う。②(本時) (3) 火事への対処や予防についての地域の取組について話し合う。①	② 調べ
③ まとめ	8 これまでの学習を振り返り、学習問題のまとめをする。分かったことを地図や紹介文にまとめ、他校へ紹介する。①	5 これまでの学習を振り返り、学習問題のまとめをする。火事の予防に向けて自分ちでできる取組を考える。①	③ まとめ

5 本 時(第3学年：11/12、第4学年：9/11)

(1) 目 標

校区の西側と東側の様子を地形、土地利用、交通の視点で比較しながら校区の様子を追究する活動を通して、校区の様子は方位によって違うことを捉えることができる。

火事が起こった際に通報が通信司令室に届く理由を追究する活動を通して、火事が起こった際の連絡体制を工夫し、関係機関と協力して火事に対処していることを捉えることができる。

(2) 本時の展開に当たって

子どもたちは、校区の西側と東側の様子の違いを明確に捉えることは難しい。そこで、地形・土地利用・交通の様子という視点で様子を比較する活動を設定する。また、その方位の様子のキャッチコピーを考える活動を設定することで、校区の西側と東側の様子の違うことを捉えさせる。

子どもたちは、なぜ、関係機関が連携するのかを捉えることは難しい。そこで、鹿児島市及び硫黄島で火事が起こった際の連絡体制を互いに紹介し合う活動を設定し、通信司令室に通報が入る理由を話し合うことで、一斉に連絡し、協力しながら迅速に対応することができることを捉えさせる。

(3) 実 際 ○直接指導時の教師の具体的な働きかけ ●間接指導に入る直前の教師の具体的な働きかけ

教師の具体的な働きかけ	主な学習活動（第3学年）	位置	主な学習活動（第4学年）	教師の具体的な働きかけ
○ これまでの学習を想起させるために、西側と東側の様子を俯瞰した画像を提示する。その際、「2つの町の様子は、同じに見えないかな。」と問うことで、俯瞰して見ると一見同じに見える2つの校区の様子には、違いがあることに気付かせ、追究問題を具体化する。 ● 2つの方位の校区の様子の違いを明確にさせるために、「地形の様子」「土地利用の様子」「交通の様子」を視点に比較することを確認する。 ○ 互いの考えを理解しながら話し合うことができるようにするために「西側は、だんだん色が変わっているから土地が高いと考えたのかな。」や「どこを見て、アパートが多いと思ったのかな。」と聞き手の子どもに問い、地図のどこを根拠に考えたのか説明させる。 ○ 西側と東側の校区の様子の特徴を視覚的に捉えさせるために、地図を中央に張り、その両側に各方位の事実を板書したり、画像を貼ったりする。 ● 各方位の特徴をまとめて考えることができるようにするために、キャッチコピーを考える活動を設定する。 ○ 学習したことの成果を味わわせるために、三島小の友達と交流することを伝える。	1 本時の追究問題を具体化する。 校区の西の様子 ← 比較 → 校区の東の様子 写真を見ると、同じ様子に見えるなあ。 でも、探検に行って調べると、様子が違ったよ。 学校のまわりの西がわと東がわは、どんな違いがあるのだろうか。 2 学習の進め方を確認する。 ○ 追究の進め方：一人調べ→全体での話し合い ○ 資料：自分たちでまとめた地図、ワークシート 自分たちでつくった絵地図の地形、土地利用、交通の様子を比べると違いが分かりそうだ。 3 校区の西側と東側の様子について調べる。 4 校区の西側と東側の様子について話し合う。 西側の様子 東側の様子 川があり、土地が高い。 平らな土地が多い。 一軒家や工場が多い。 マンション・アパートが多い。 J R・市電が通っている。 大きな道があり、交通量が多い。 比較(地形) 比較(土地利用) 比較(交通) 【共通点】 地形、土地利用、交通の様子が違う。 一軒家と工場のまち 大学生いっぱいのまち 西側は、唐湊の土地が高い所に一軒家が多くあり、工場がたくさんあるからです。 東側は、大学生がたくさん住んでいて、アパート・マンションが多いからです。 5 本時のまとめをする。 校区の西側は、一軒家や工場が多く、東側は、アパート・マンション、店が多く、様子が違う。 6 学習のたしかめ及び振り返りをする。 地形、土地利用、交通の様子を比べると校区の様子の違いがよく分かったよ。まとめたことを三島小の友達に紹介したいな。楽しみだな。	(分) 1 3 2 2 2 16 5 5 3 3 3	1 本時の追究問題を確認する。 鹿児島市も三島村もなぜ、消防しょ（分団）に通報しないのだろうか。 2 学習の進め方を確認する。 ○ 追究の進め方：附属小の発表→三島小の発表→全体での話し合い 学習問題を解決するために、互いに調べたことを発表し合うといいね。 3 火事が起こった際の関係機関との連携について調べたことを話し合う。 鹿児島市の体制 硫黄島の体制 119番 電話 通信指令室 役場の出張所長 ガス会社 建設会社 警察署 交番 電力会社 消防分団 消防分団員 水道局 消防分団長 消防署 消防分遣隊 火事の現場 火事の現場 119番を通報すると通信指令室につながり、そこから消防署をはじめとする関係機関に連絡が入り、火事の現場に向かいます。 硫黄島では、電話で出張所長さんに連絡して、そこから消防分団長や団員、交番などの関係機関に連絡が入り、火事の現場に向かいます。 【共通点】 どちらの地域も、とりまとめをする通信指令室や出張所長に連絡が入っている。 通信指令室に連絡が入ることで、関係機関に一斉に連絡することができ、協力して火事に対応することができるからだよ。 関係機関に一斉に連絡が入ることで、早く火事に対応に当たることができるからだよ。 4 本時のまとめをする。 通信指令室に通報が入ることで、一斉に関係機関に連絡することができ、協力して火事に対応することができるから。 5 学習のたしかめ及び振り返りをする。 地域では、火事の防止に向けてどんな取組をしているのかな。家の近くに、消防団の倉庫があるな。	● 学習の見通しをもたせるために、「119番をすると消防署につながらないことや分団に連絡しないこと」を想起させ、前時に具体化した追究問題を確認する。また、三島小と調べたことを交流しながら問題解決を図っていくことも確認する。 ○ 指示系統を統一していることや連携している関係機関を捉えさせるために、互いの地域の連絡体制を比較させる。 ○ 火事が起こった際の連絡体制を理解しやすくするために、絵図や矢印を活用しながら説明させる。 ○ 互いの考えを理解しながら話し合うことができるようにするために「どうして、ガス会社や水道局に連絡するのですか。」や「どうして、建設会社に連絡するのですか。」などの質問をさせる。 ● 指示系統を統一することで、迅速かつ協力して火事に対応することができることを捉えさせるために、「どちらの地域もとりまとめをする所へ連絡しています。何かよさがあるのでしょうか。」と問い、その理由を話し合わせる。 ○ 地域の火事防止の取組への興味を高めるために、地域の消防団や広報イベントなどの画像を提示する。